

発生すれば甚大な被害「牛サルモネラ症」

発生予防と早期発見・早期治療

近年、全国や中国生乳販連管内でも「牛サルモネラ症」を疑う症例が発生しております。ひとたび発症すれば、生乳出荷が出来ないだけでなく、生乳廃棄や治療等の費用負担も重なり、酪農経営に大きな

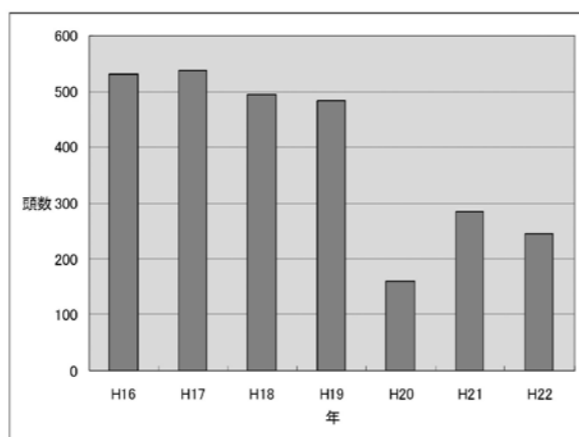
ダメージを与えることになります。今回、この症状や予防策を紹介しますので、組合員の皆さんには自衛防疫の徹底をお願いします。

1 発生状況

全国での牛サルモネラ症の発生頭数は平成20年に減少したものの、毎年発生が続いています(図1)。本症は集団飼育される子牛に多発する病気でしたが、近年、牛の飼養形態の変化に伴い、搾乳牛での発生が増加傾向にあります。県内でも時折発生が確認されており、今年に入っても確認されています。

原稿提供者：広島県北部畜産事務所・北部家畜保健衛生所・防疫グループ 主任 上川 真希佳 氏

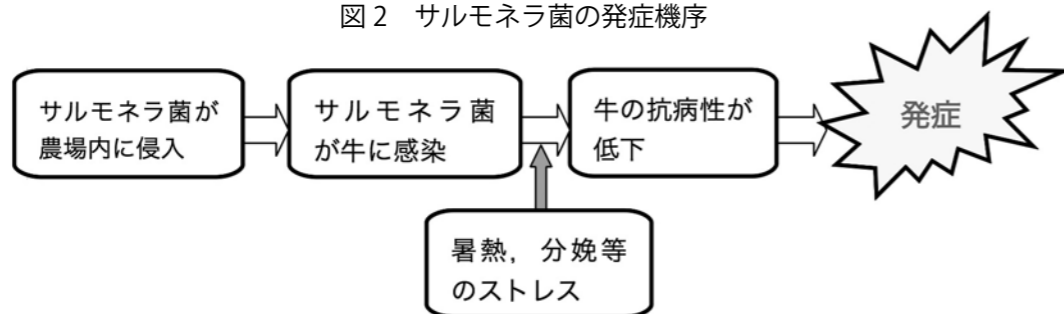
図1 国内の牛サルモネラ症(届出伝染病)発生頭数(家畜伝染病発生情報データベースから作成)



2 サルモネラ菌の感染様式等

サルモネラ菌は自然界に広く分布する細菌で、牛に感染すると発熱や下痢などを引き起こし、また、人の食中毒の原因にもなる公衆衛生上重要な病原菌です。導入牛、人、人が持込む物品、野生動物などによって農場内へ侵入したサルモネラ菌が牛に感染し、暑熱、分娩などのストレスが引き金となり発症すると考えられます(図2)。

図2 サルモネラ菌の発症機序



3 症状

40℃以上の発熱、水様性下痢、食欲不振、乳量の減少等を示し、妊娠牛では流産を起す場合があります。(図3、4)



図3 激しい下痢



図4 血便

4 検査から診断まで

臨床症状及び糞便検査の結果を基に牛サルモネラ症と診断します。**糞便中のサルモネラ菌を確認するには、菌の培養を行うため、3日間程度必要です(図5)。**サルモネラ菌の種類(血清型)や効果のある抗生物質の特定には、さらに日数が必要です。判明した血清型が、サルモネラ・ダブリン、サルモネラ・エンテリティディス、サルモネラ・ティフィムリウムであった場合は、**家畜伝染病予防法に規定されている「届出伝染病」となります。**

図5 サルモネラ菌の黒色コロニー
(日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 HP から引用)



5 治療

治療は、一般的に抗生物質が使われます。また、生菌製剤を投与し、腸内細菌叢(ちょうないさいきんそう)を整え、排菌を低減させます。症状は回復しても糞便中に排菌している「保菌牛」が存在することが多いため、継続的な生菌製剤の投与が必要です。

6 生乳の出荷

発症牛の治療には抗生物質を注射するため、この間(使用禁止期間)の生乳は廃棄となり、多大な経済的損失をもたらします。**また、食品衛生法に基づき、サルモネラ症を発症した牛の乳は出荷できません。**

なお、生乳の出荷再開に当たっての注意点は次の3点です。

- ① 治癒した牛の乳であること
- ② 薬剤の使用禁止期間が終了していること
- ③ 発症牛は隔離していること

7 予防

サルモネラ症は、一度発生すると経済的損失が大きく、保菌牛の存在等により清浄化が困難な疾病であることから、**次のような発生予防対策が大変重要**です。

- ① 農場入口に踏み消毒槽を設置し、履物の消毒を徹底する。
- ② 牛舎は定期的に消毒する。
- ③ 飼槽、ウォーターカップ等はこまめに掃除する。
- ④ 牛舎への野生動物(ネズミやカラス等)の侵入を防ぐ。
- ⑤ 導入牛は、2週間程度隔離・観察を行う。
- ⑥ 予防的に生菌製剤を投与する。

8 最後に

家畜の伝染性疾病のまん延を防止するためには、早期発見・早期治療が重要です。飼養家畜に異常を認めた場合は、速やかに診療獣医師又は家畜保健衛生所に連絡して下さい。

家畜保健衛生所の連絡先と管轄市町

西部畜産事務所・西部家畜保健衛生所 ☎ 082-423-2441

広島市、呉市、竹原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町

東部畜産事務所・東部家畜保健衛生所 ☎ 084-921-1311

三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町

北部畜産事務所・北部家畜保健衛生所 ☎ 0824-72-2015

三次市、庄原市